

**令和6年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について**

保護者の皆様へ

白河市立東中学校長

令和6年4月18日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は3年生で、国語、数学の2教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、生徒の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語	58.1%	○				
数学	52.5%	○				

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	59.2%	○				
情報の扱い方に関する事項	59.6%	○				
我が国の言語文化に関する事項	75.6%					○
話すこと・聞くこと	58.8%	○				
書くこと	65.3%			○		
読むこと	47.9%	○				

【考 察】

- 「我が国の言語文化に関する事項」については全国平均を上回る正答率となりました。一方で、下回っている領域は4つと、全体的に見て全国平均との大きな差が露呈することになりました。特に「読むこと」の領域ではどの設問においても正答率が低いため、説明的な文章の要旨や例示、主張などを読み取り、それらの情報を活用する力を伸ばすよう指導してまいります。
- 単元の学習のまとめとして意見文や鑑賞文に何度も取り組ませたこともあり、「書くこと」については順調に力が身につけてきています。「読むこと」については情報の読み取りとそれらを活用して内容をまとめるなどの活動の機会を増やし、言葉や語句の意味、文章の構成を意識した学習課題を検討し、実践してまいります。

【数学：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	51.1%	○				
図形	40.3%	○				
関数	60.7%	○				
データの活用	55.5%	○				

【考 察】

- 各領域で、用語の意味やその使い方に関する問題の正答率が全国平均を下回りました。今後は、用語の意味を正しく理解させた上で、適切に活用する場面を多く設定していきます。また、授業時間の中に自分の力で考える時間を確保するとともに、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ってまいります。
- 筋道を立てて考え、数学的な表現を用いて説明・証明することが苦手な生徒が多く、記述式問題の無回答率が高い結果となりました。特に「図形」の証明では、印をつけながら問題文を読むなどの工夫をさせることで、必要な情報を適切に読み取る力を身につけさせ、さらに、条件を変えた問題に取り組ませることで活用力を高めてまいります。